

県病院局、松代病院の無床診療所化ごり押し 関係住民、職員の声を無視、上越市を入れずに協議

新潟県病院局はベッド数削減などにより医療費支出を減らす目的で、県立松代病院をベッドの無い診療所に変えようとしています。上越市を含む関係地域住民は「松代病院は住民の命の砦だ」と訴え、反対署名を6割、7割も集めました。病院職員も反対しています。私は一般質問で、この問題を取りあげました。

【橋爪】県立松代病院は県の病院改革の対象となっているが、関係地域の住民の命と健康に大きな影響を与える。このうち松代病院について、県は来年4月からベッドの無い診療所にしようとしている。市長はどうか。

【小菅市長】この間、市では、県病院局に対し大島区での住民説明会の開催を要請し、実施につなげ、その準備や周知に協力してきた。説明会では、県による運営の維持や、入院及び夜間・休日の対応についても説明されたことから、一定程度、住民の不安は軽減されたものと考えている。

【橋爪】県病院局は当初、大島区での説明会をやる気はなかった。松代病院は松代、松之山、大島の住民の医療機関だという趣旨のことをホームページに書いていながら、説明会の対象にしなかった。それはおかしいと私が指摘し、皆さんも動いてくださって、大島での説明会が実現した。

（問題はそれだけじゃない。）病院の無床診療所化に関する条例を提案する際に

も、その手続きの上でも、県は上越市と相談していない。病院局の方針について合意したとされている10月7日の魚沼圏地域医療構想調整会議、上越市は医療圏が違うから正式メンバーじゃないが、オブザーバーとしての参加をという要請はあったのか。

【健康福祉部長】調整会議への出席の要請、お話はなかった。

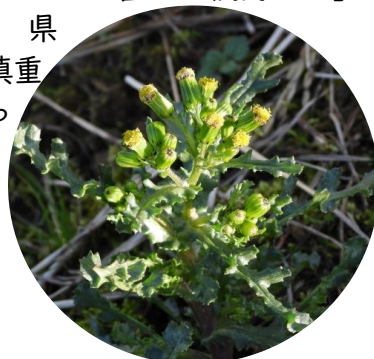
【橋爪】おかしいですよ。ホームページで上越市の住民も対象にした病院だと書きながら、肝心の自治体に相談がない。こういう中で、審議を行った。

厚生労働省の指針で地域医療構想調整会議は「地域の住民が望む医療へのかかり方などを聴取し、ニーズを把握する」となっている。当然、地域住民や関係自治体の声を聞かなければならない。しかし、やってない。確かに2つの医療圏を跨ぐような感じの病院にはなっているが、厚生労働省の指針でもちゃんと書いてあるのだから、その通りにやらんと駄目だ。これは病院局側の責任だ。みなさんは県にちゃんと抗議したか。

【健康福祉部長】県に申し入れたり抗議したりはしていない。

【橋爪】新聞報道では無床診療所化について合意ができたと報道されているが、（そう評価できない）審議の実態がある。調整会議の布施議長は、この病床数の変更は、「着地点としての最終の目標」として合意できたが、「プロセスが十分ではない。まだ合意形成のために、ビジョンづくりのためにやるべきことがあるんじゃないか。沢山の不安をご指摘いただいたこともある」と発言された。南魚沼市民病院の外山院長が「4月1日からの実施は非常に不安を与えている」と発言、それに対して病院局の経営企画課長はどう答えたか。「段階的に対応した方がいいかどうかも含めて検討する」と答えている。県に「もう少し慎重になれ」と言ってほしい。

【市長】できる限りやっていきたい。



【ノボロギク】キク科の越年生または一年生の雑草。漢字で「野檻樓菊」と書きます。冬になっても咲いている花の1つです。天気の良い日に田んぼの畔を見に出かけてください。黄色い小さな花と出会うことができるはずです。通常の花期は5月から8月です。花言葉は「意志を貫く」「一致」「合流」など。13日に吉川区片田で撮影しました。



三和区のコウノトリの親鳥ペアが先月末から巣の修復作業をしています。作業の様子をこのほど、ようやく撮ることができました。写真は個体番号J0482のメスです。17日撮影。

市民による消火栓使用については、これまで長年にわたり、市議会総務常任委員会や一般質問で活発な議論が行われてきました。先月20日、市民の消火栓使用の意見書を出した吉川区地域協議会と市役所防災危機管理部とで意見交換が行われました。このなかで行政側は、市民による消火栓使用を認めてという声と行政側のズレをなくして交わることができるようになりたいと発言しました。私は一般質問の中で、小菅市長に、「市民の消火栓使用をめぐる諸課題をもう一度整理し、着地点を探るべきだ」と訴えました。これに対して市長は、「消防庁などの見解は、使用可否は自治体の判断だとのことだった。今後も吉川区地域協議会との対話を続け、常備消防などの知見を得ながら、市民による消火栓使用の必要性を検討していく」と答えました。今後の動きに注目です。

市民の消火栓使用の必要性、検討へ

はしづめ法一の 活動レポート

No.2232 2025.12.21

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八七九回 いつのまにか

最近、身の回りのことで「こりや、親父やおふくろと同じことやってる」と思うことが多くなってきました。

朝から順番に紹介しましょう。まず、布団からなかなか起き上がれない。まっすぐ立てず、少し体をひねって、片腕を杖がわりにしてやっと体を起こしています。

体を起こしたら、次に、布団の脇に置いてある洗濯済みの靴下を履きます。太っているせいもあるでしょうが、足を少しひねって、靴下をかぶせ、ひっぱって直す。以前は足をまっすぐ立てて履いたのですが、いまはできなくなりました。

布団から立ち上がるときは気合を入れて、「よいしょ」と言いながら立ちます。ここでも敷布団の上で体を起こすときと同じく片方の腕を使います。

起き上がったからは、パジャマを脱いで、長袖のシャツを着ます。最近、予想してなかったことが起きました。ワイシャツのボタンがなかなかはまらないのです。特に左ボタン、うまくいきません。先日、起きてすぐ外に出たかったのに、時間がかかり、いらつきました。

現在、私が寝ている場所は亡くなった母の部屋だったところ。二階の私の部屋からこの一階の部屋に移ったのは、夜間、母のトイレ介助が必要になってからです。

朝起きると、まずトイレに行きます。トイレには二つのドアがあるので、外側のドアはともかく、内側のドアが閉めてないことがあります。父や母が自力でトイレに行っていたころ、朝、トイレのドアを開けると、内側のドアがよく開いていたものですが、二人ともこの世にいないなくなったというのに、またドアを開けっぱなしにしてある。これは、明らかに私が夜中にトイレに行った後の行為です。

なんで内側のドアを開けっぱなしにしているのか。ドアの取っ手に触る前に、手洗

いをしたいという気持ちが動きます、手洗いをした後、振り返り、ドアをちゃんと閉めればいいことなのですが、どういう訳か忘れてしまっていることが多いのです。

朝食をとって、家から市役所などに行くとき、家の者から「気をつけてね」「何か忘れ物ないかね」と言われます。「おれだって必要なものはちゃんと持っているわ」そう思っているのですが、毎回と言っているほど何かを忘れています。

一番多いのは携帯電話。出かけて途中で不携帯に気づくと、落ち着かなくなります。続いて多いのは財布、これも携帯電話と同じく大事な持ち物で、無ければ買い物も食事もできなくなります。やはり、無いと落ち着きません。

車の運転にも変化がでてきました。先日も連れ合いを乗せて買い物に出かけたときに、「おじいちゃんと同じだね。道の真ん中に寄ってる」と言われました。白線が真ん中にあれば、左側を意識するのですが、無い場合は無意識のうちに真ん中に寄っている、ともすれば真ん中を走っているのかも知れません。

家に戻ってからは、靴を脱いで、自分の部屋に行きます。そこで普段着に着替えるのですが、スーツをハンガーにかけても、左右のバランスが崩れたままのことがあります。じつは数年前から左手を上の方によく上げられなくなりました。途中で左右のバランスを崩しても、そのままにしておくことが多くなっています。

父は後期高齢者になってから身の回りのこと、車の運転など多くのことができなくなりしました。忘れられないのはトイレでお尻を洗淨するウォッシュレットを使えなくなったことです。父ほどではなかったですが、母もいろいろできなくなりました。そしていつのまにか、私も父や母と同じ道を歩み始めています。頑張らなげや。

ピアスライブ、荒天でも大賑わい



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

| | 12月10日(水) | 12月17日(水) |
|--------|-----------|-----------|
| 上越消防署 | 0.053 | 0.050 |
| 上越南消防署 | 0.047 | 0.043 |
| 新井消防署 | 0.053 | 0.057 |
| 頸北消防署 | 0.053 | 0.047 |
| 頸南消防署 | 0.067 | 0.053 |
| 東頸消防署 | 0.057 | 0.053 |
| 名立分遣所 | 0.060 | 0.057 |
| 高士分遣所 | 0.057 | 0.047 |

コミュニティバンド、「ピース&スマイル」(略称ピアス)の今年最後のライブが14日、柿崎コミュニティプラザで行われました。外は強い雨風でしたが、会場は熱気まんまん、ピアスと200人近い観客とが一体となって懐かしい歌を楽しみました。

今回のライブでは、柿崎区上下沢の小山一登さんが司会を務め、みん

なで楽しむ様々な工夫をしてくださいました。

歌は全部で20曲くらいでしたが、そのなかの1つに「かちやの歌」(作詞ほーせのとちや+maco、作曲maco)がありました。1年ぶりに聴きました。macoさんの、母親をいとしく想う気持ちいっぱいの歌に感動が広がりました。イラストは「ヤングマン」を踊る人たちです。